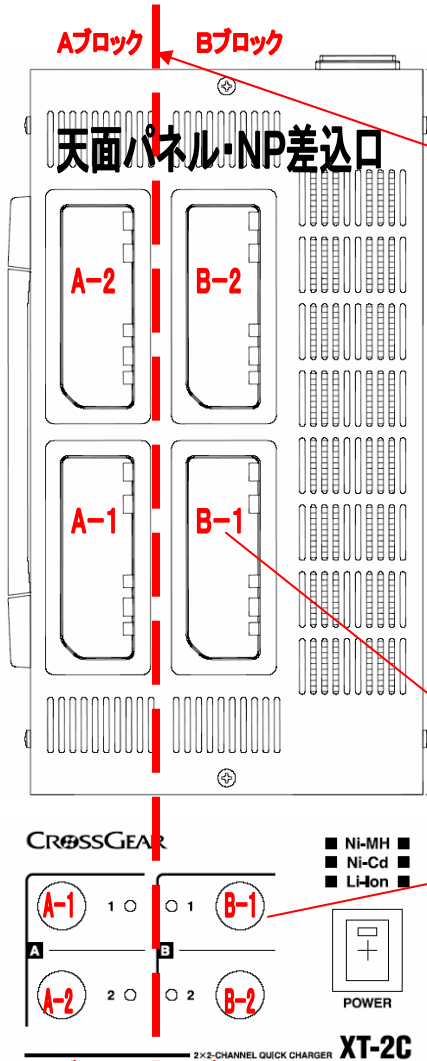


クロスギア製充電器の動作説明と注意点

クロスギア製充電器は大別すると、電池データ計測用Rシリーズと出張持ち出し用のCシリーズがあります。拡張多チャンネル版も各種ありますが、各シリーズのベースとなるXT-2CとXT-4Rの説明により全ての機種の動作についてご理解いただくことが可能となります。



<XT-2Cについて>

XT-2CはAブロックとBブロックが独立した動作をします。
(充電器Aと充電器Bが横に並んでいるイメージです)

フロントパネルのAブロックには、BP差込口A-1とA-2がありますが、先に接続した方から充電を始め、充電が終了すると後に接続した方の電池を充電開始します。

(A-1 A-2 A-2 A-1)

Bブロックも同様です。

(B-1 B-2 B-2 B-1)

天面側にも同様に、AブロックA-1とA-2、BブロックB-1とB-2があります。

基本動作は上記と同様です。

注意!

フロントパネル側と天面側の同じブロック・同じ番号への接続は禁止です。

(フロントパネルB-1と天面B-1の接続はNG)

(フロントパネルB-2と天面B-2の接続はNG)

(フロントパネルA-1と天面A-1の接続はNG)

(フロントパネルA-2と天面A-2の接続はNG)

この様に接続した場合は、両方の電池への充電を中止します。

(例: フロントパネルB-1と天面B-2のように同一ブロックでも同一番号でなければ接続はOK)

先に接続した電池から充電を開始します。

Aブロックも同様です。

フロントパネルと天面の両方で一度に接続できる電池は、**最大で4本**です。

AブロックとBブロック両方に電池が接続されている場合は、各ブロック独立ですから、**2本同時に**充電が行われます。

<XT-4Rについて>

XT-4R はフロントパネル BP 側と天面 NP 側が連動します。

一度に全ての電池挿入口に接続が可能です。

電池を接続すると、最初の動作は充電モードです。放電させたい場合は、**Dischgボタン**で放電モードに切り替える必要があります。
(充電中にボタンで放電に切り替えます)
放電が終了すると自動的に充電に切り替わります。

フロントパネル側と天面側、同じ番号両方に電池を接続した場合は、先に挿入した方の電池から充電を開始し、終了すると後から接続した方の電池を充電開始します。
*放電動作注意点については 参照。

充電状況を表示する**LCDパネル**はフロント側と天面側を**切り替えスイッチ**により、別々に見ることが出来ます。

フロント面と天面の両方で一度に接続できる電池は最大で**8本**、同時充電は最大**4本**です。

同じ番号のフロント面と天面の**両方**に電池を接続してから、**放電モード**に切り替えた場合 先に接続した電池・後に接続した電池**共に**最初の動作は**放電モード**。

例：フロントBP側の1番に電池を接続し、天面NP側1番にも電池を接続してから Dischg ボタンで放電に切り替えた場合。



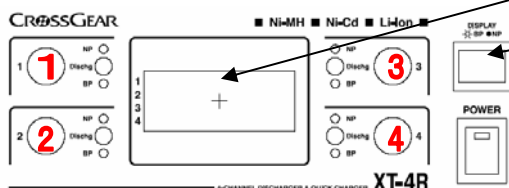
先に接続したBP側は放電を開始 放電終了後に充電 充電終了後、切り替わったNP側は**放電**から始まる。

フロント面または天面に電池を1本接続して、**放電モードに切り替えた後**、同じ番号の空いている挿入口に追加で電池を接続した場合 先に接続した電池の動作は放電モードから充電へ。後に接続した電池の最初の動作は**充電のみ**。

例：フロントBP側の1番に電池を接続し dischg ボタンで放電に切り替えた。その後NP側の1番に電池を接続した場合。



先に接続したBP側が放電を開始 放電終了後に充電 充電終了後、切り替わったNP側は**充電**から始まる。



フロントパネル・BP差込口

